

コンサートレポート



9月30日、成田シニアアンサンブル青空「秋のコンサート ～さわやかな風にさそわれて～」を成田中央公民館で開催いたしました。開場前から、多くのお客様がロビーでお待ちくださり、140席はすぐに満席となりました。第1部は、全てタンゴのプログラム。当団のテーマソング「碧空」からスタートし、アルゼンチンタンゴ、コンチネンタルタンゴの計6曲を演奏しました。始めは緊張気味の演奏でしたが、司会を務めた団員の笑顔と、ユーモア溢れる語り口に場を和み、団員の表情も柔らかくなり、第1部最後の曲、情熱的な「ラ・クンパルシータ」を演奏するとお客様から大きな拍手をいただきました。第2部は、フランスと日本の歌。「サントワマミー」成島弘先生編曲「オーシャンゼリゼ」「パリの空の下」を演奏し、フランスの旅を楽しんでいた後は、美空ひばりさんの「川の流れのように」他2曲を演奏し、懐かしい昭和の時代へ、タイムスリップ。女性団員の歌のリードでお客様に「青い山脈」「上を向いて歩こう」を歌っていただくと、大きな歌声が会場を響き渡り、観客と演奏者が楽しい時間を共有できた瞬間でした。今後も、音楽の喜びや、楽しさを分かち合う活動をし、ご支援くださる皆さまに喜んでいただけるよう練習に励んでまいりたいと思います。

成田シニアアンサンブル青空 加藤恭子

菊の香薫る11月19日(日)、**取手シニアアンサンブル第二回定期演奏会**が晴れやかに開催されましたので、牛久から馳せ参じました。会場は取手駅横の新装になった取手ウエルネスプラザで、多目的ホール、フィットネスジムなどが入った豪華な施設です。開場の30分前から、100人近い観客の列ができ開場5分前にはどっと入場となり、そのまま341席が満員となり開演を迎えました。今回の定演の陣容は弦がVn:7、Vc:2、Mn:3、Gt:2、BUkulele:1の15名。管はFl&Picc:5、Cl&BCl:8、Pf&パーカッション:3の合計26名ののど々たる大編成で臨まれました。オープニングの曲は「ピリブ」、豊かなハーモニーでしっとりとした秋を感じさせてスタートしました。曲後、取手市長より挨拶の祝辞を述べられ「人生のエキスパートのみなさんが懐かしい風景を思い出してくれて感謝。いつまでも若々しいグランパ&グランマでと。」励まされました。続いて「ロンド」、モーツァルトの「交響曲第25番」ともに弦が謳い管が応えるシックな響きでした。次はドラムソロからの「黒人霊歌メドレー」、曲中、岡村顧問のVnソロが入り、続いて弦とパーカッションの軽快なリズムで第一部の後半に突入しました。シャンソン イージーリスニング、タンゴの各名曲です。「オー・シャンゼリゼ」「レットイットビー」。「真珠採り・夜のタンゴ」のアンサンブルが第二部への期待を膨らませて休憩タイムとなりました。第二部は団員さんのガラッと衣装替えて女性はピンク、男性はホワイトのジャケットであてやかな登場です。スタートはヴォーカルを交えての「日本の歌と、懐かしのスクリーンミュージックの合体」。まずは、ブルーの衣装の小田島さんの華麗な歌声のもと懐かしい和曲4曲がバックの演奏のもとで歌いこまれました。



「花」に始まり「花は咲く」、会場の皆さまも声を張り上げての合唱です。この瞬間、団と観客の皆さまが一心同体となりました。あるお客さんは、「大声で歌うわ、一生懸命歌って演奏のみなさんにお返ししたい」と声を張り上げていました。続いては、ピアノのソロで始まり、ドラムの叩きが引き継いでチェロが爪弾きのシネマソングの懐かしい曲の数々。「ゴッドファーザー」・・・「愛のテーマ」「ひまわり」ではFlが、「慕情」ではチェロの妙齢なピッチカートが、更にはキャッツのヴォーカルが謳う「メモリー」観客ともども小生も悲哀と悲恋のはざまに引きずり込んでくれました。ラストの曲は「ドレミの歌」、希望と未来への意思を感じさせる演奏で締められました。途端、アンコールの声飛び交い、なんと2曲の演奏となりました。「また、会う日まで」と「マイウェイ」。第三回定演への強いメッセージだと分かりました。今日の演奏、タプリー堪能させて頂きました。兄弟子の取手シニアアンサンブルのさらなる発展とご活躍をお祈りします。併せて、来年4月の牛久第一回定演への大きな鏡とさせて頂きましたこと、深く感謝いたしますと思ひながら、会場をあとにしました。

・・・牛久SE 田淵 崇・・・

附) 隣に座っていた小さな女の子が、菅先生のタクトに合わせて指を振っていました。

市原SEこすもす 第5回演奏会 秋さわやかコンサート



私達の楽団こすもすは発足以来八年、不定期に演奏会を開いてきました。今回の『秋さわやかコンサート』は第5回目となります。選曲が私達の技量を少し越えたものがあったり、予定していた賛助出演が急になかったり、譜面が間に合わなかったり、基本的にどの曲も練習不足になって気持ちの上で焦る結果となりました。さらに、朝からあいにくの雨降りでお客様の出足が心配でした。でも、蓋を明けてみれば市原市民会館小ホールはほとんど満席となり、いつものことながら本番になるとリハーサルよりはるかに上手になるのです。今回も終わってみれば、お客様も私達も楽しい時を過ごせたと思います。オープニングの「サウンドオブミュージック」の照明の演出や「愛燦燦」を団員の男性が歌ったこと、みんなで歌う曲の選曲など、お客様のアンケートからも成功だったと思います。「マカレーナの乙女」や「ブラジル」でのパーカッションの起用なども楽しかったです。最後の二つ目のアンコール「80日間世界一周」の演奏途中でナレーションを入れたことも素敵な演出でした。これからも皆で知恵をしぼって素晴らしい演奏会を作り上げていきたいと思ひます。

レポート：市原SEこすもす 永野寛子